

思春期に見られる課題への対応

昭和 63 年度から平成 23 年度まで教壇に立っていた。うち、15 年間は生徒指導を中心に据えて取り組まなくてはならないやりがいのある中学校に勤務していた。

保護者、地域、関係機関等さまざまな方々の協力を得、学校をよりよい方向へ進めるために組織の一員として働かせていただいた。その間、個性豊かな生徒達と交流を持つことができた。特に、エネルギーがあり、元気な生徒達との関わりは、生徒との関わり方や指導の仕方など先輩方に習い、自分なりに学べたと思うし、自分の財産だと感じている。

長年法務省に勤務され、支援を必要とする児童生徒に関わってこられた小栗正幸（おぐりまさゆき）先生のお話を聞くことができたので、要旨をまとめてみた。

（以下 講演の要旨）

○今日は、「思春期＋発達障害」に関するお話です。

- ・戦場から帰還した兵士が微細脳損傷を受けた。脳に小さな傷を負い、荒い性格になった。これとよく似た症状をもつ子どもの存在が注目をされた。
- ・発達障害を一番初めに気がつくのは歯科医師である。その子どもは、針の小さな（チクリ）と大けが（グサリ）の痛みの区別がつかない。

○特別な支援は、自己理解、つまり性格がわかることが一番大切である。



- ・**利害一致の手続き**が大切である。

「君も困っている、私も困っているんだよ」から入る。…「利」で一致させる。

「君もわかっているように、高校を卒業することが大切なんだ。」…指導はポジティブに！

○実際の指導に当てはめてみる

基本

- ・とにかく、決めつける言動が多い。



固執、こだわりがある

こだわっている側（子ども）はエネルギーを使っていないが、相手する側（先生）はエネルギーを使っている。

- ・対処 **対象者の「こだわり」にこだわるな**

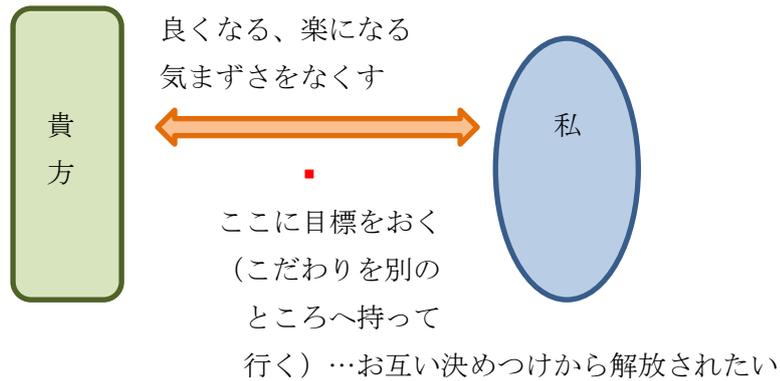
しゃべらない子の対応には、しゃべらないことにこだわるな！

正論はケンカになる。皮肉がよい（アサーション）。

「**そこまで間違ったことを一方的に自己主張できるのは、ある意味うらやましいな**」

（セリフだと思って覚えておけ！）（ただし、カウンセリングには使ってはだめ！）

(その場をしのぐことは大切である)



※ポジティブな気持ちで指導 (怒る)

騒がしいとき 『うるさい!』 と言おうと思った」
怒り 『バカたれ!』 と言うと思っただろう」
英語の時間 『Shall up!』 の意味知ってる?」

暴言 …深い意味や理由はない。だからケロッとしている。

・含みを残す無視

「また心にもないことを」(セリフだと思って覚えておけ!)

言外に肯定的な意味がある

しかし、言外を言語化するのは禁忌

死にたい

・死から横にそらしたい

「困っていることを相談してくれてうれしいです」(セリフだと思って覚えておけ!)

「他の人にも相談している?」 (//)

「している」→「良かった」 (//)

「先生だけです」→「ありがとう」 (//)

非行の否認 …物証があるか(物証がないと裁判で負けます)

物証は不確かだが、状況証拠は十分あるとき

・信頼関係の崩壊は避ける。

・軽い良性の不安を与える。

「整理するよ。物は自分で歩けないよね。…。」「窃盗だね。困っている人いるね。」

「警察に協力してもらわなくてはならない。」「校長先生に判断を仰ごう。」

(一週間ほっておく)

「先生、あれどうなった?(聞きに来る)」

「あれって何?」

「無くなった件。警察に言った?」

「君は心配しなくてもいいよ。」

- ・道徳判断 VS 利害判断（損得判断）
（飲酒） （駐車違反）
どちらかを時と場合で使い分ける

指示の与え方

- ・先生…指示の与え方を勉強した方がよい
言語的指示から**動作的指示**を



おしゃべりしている生徒の机にそっと手を置く

- ・生徒…指示に従う練習をした方がよい

気になる生徒にちょっと多めに仕事を与える。「ほうき片付けといて」



その子に応じたほめ方

人前？ ことば？（実態把握が大切）

（以上 講演の要旨）

かつて生徒から「嶋、死ぬ！」「殺したる！」と何度も言われた。

カーッときたこともあったが、「まあそう言うな。心配せんでもお前より早く死ぬから待ってろ。」と言ったことがある。こんなその場しのぎの連続であったが、今日の話で救われた気持ちになった。

教師にとって気になり手のかかる生徒は、後々しっかりやっていることが多い。パワーというかエネルギーをもっているのだろうか。そのときそのとき教師にはきつくつらく感じるものだが、視点を先へ持って見てやる必要があるだろう。（でも、その間、学校や校長は非難にさらされるのだが・・・。）
小栗先生がおっしゃるように今を「しのぐ」ことも大切なだろう。

今回の小栗先生の講演は、ご本人も言っていたが、インクルシブやユニバーサルデザインという言葉は出てこなかった。このホームページに「特別な支援の活用」という文をのせてあるが、おなじことを伝えたかったと理解している。要は、「実態把握」と「自己理解」が大切である。

とても楽しく、かつて体験した場面を思い浮かべながら聞き入っていた。